資料３

青森県立高等学校教育改革推進計画

第２期実施計画

［令和５年度～令和９年度］

令和３年１１月１２日
青森県教育委員会

目　　次

第１　第２期実施計画策定の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第２　学校・学科の充実

1　全ての高校に共通して求められる教育環境・・・・・・・・・・・・・　3

2　全日制課程

（１）普通科等の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

（２）職業教育を主とする専門学科の充実・・・・・・・・・・・・・・・・　8

（３）総合学科の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

（４）多様な教育制度の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

3　定時制課程・通信制課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

第３　学校規模・配置

1　全日制課程

（１）中学校卒業者数の推移（見込み）・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

（２）募集学級数の推移（見込み）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

（３）地区ごとの学校規模・配置計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

（４）地域校への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

（５）統合に当たっての留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26

2　定時制課程・通信制課程

（１）定時制課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

（２）通信制課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

第４　魅力ある高校づくり

1　学校・家庭・地域等との連携の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

2　教育活動の充実に向けた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

第５　県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

1　青森県立高等学校教育改革推進計画の進捗管理・・・・・・・・・・・　32

2　次期実施計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32

附属資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33

第１　第２期実施計画策定の経緯

（青森県立高等学校将来構想検討会議※における検討）

○　県教育委員会では、社会の変化や生徒数の急激な減少に対応し、生徒の夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高校の在り方について「青森県立高等学校将来構想検討会議」へ諮問し、同会議における約１年半にわたる審議を経て、平成２８年１月２５日に答申を受けました。

（基本方針の策定）

○　この答申を踏まえ、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境づくりに向け、平成３０年度以降のおおむね１０年間を見据えた県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す「基本方針」と具体的な学科改編や学校規模・配置等を示す「実施計画」（第１期実施計画：平成３０年度から５年間、第２期実施計画：令和５年度から５年間）により構成する「青森県立高等学校教育改革推進計画」を策定することとし、平成２８年８月３日に基本方針を策定しました。

（第１期実施計画の策定・推進）

○　第１期実施計画の策定に当たっては、平成２８年９月から平成２９年１月まで、県内６地区で各３回の地区意見交換会を開催し、市町村教育委員会教育長、小・中学校長等の学校教育関係者、PTA関係者、産業界関係者等から各地域の実情に即した幅広い御意見を伺った上で、計画案を公表しました。

　計画案の公表後は、県民の皆様に直接御説明した上で御意見を伺う地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施等を通して多くの御意見等をいただきながら検討を重ね、平成２９年７月２０日に第１期実施計画を策定しました。

○　平成３０年度からは、主体的・対話的で深い学び※の実践や学習指導におけるICTの活用等による各校の教育環境の充実を図るとともに、重点校※・拠点校※と各校との連携、学科改編を含めた各学科の充実、学校規模の標準※を踏まえた計画的な学校配置に取り組むなど、第１期実施計画の着実な推進に努めてきたところです。

（高校教育の充実に向けた検証）

○　県立高校教育改革の推進に当たり、生徒の夢や志の実現に向けた高校教育の充実に資するよう、令和元年度に高等学校教育に関する意識調査※を実施しました。

　また、第２期実施計画の策定に向け、第１期実施計画の取組状況を検証するため、県内の有識者で構成する「青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針検証会議」を設置し、令和２年５月２６日に報告書を提出いただきました。

※青森県立高等学校将来構想検討会議：平成３０年度以降の県立高校の在り方について検討するため、県教育委員会が平成２６年度～２７年度に設置した有識者会議です。

※主体的・対話的で深い学び：附属資料１（３３ページ）参照

※重点校：５ページ参照

※拠点校：８ページ参照

※学校規模の標準：基本となる学校規模　…　１学年当たり４学級以上
　　重点校の学校規模　…　１学年当たり６学級以上
　　拠点校の学校規模　…　一つの専門学科で１学年当たり４学級以上

○　この報告書では、重点校・拠点校・地域校※の配置や学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置等、基本的にこれまでの取組を継続するよう提言いただいた一方で、「地域校について、中学生の進路選択に不安を与えないような対応を検討すること。」、「より充実した教育環境の実現を図るため、全国からの生徒募集の導入を検討すること。」等、基本方針の見直しに関する提言もいただきました。

（基本方針の改定）

○　基本方針検証会議の報告書等を踏まえながら、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境について改めて検討し、第２期実施計画の策定・推進に向けた基本的な考え方を示すものとして、「地域校の募集停止等の時期」や「全国からの生徒募集の導入に係る検討」等を新たに加えた基本方針（改定案）を公表しました。

　その後、地区懇談会やパブリック・コメントによる御意見等を踏まえながら更に検討を重ね、令和２年８月５日に基本方針を改定しました。

（第２期実施計画の策定・推進）

○　第２期実施計画の策定に当たり、令和２年９月から令和３年２月まで、第１期実施計画策定時と同様に、県内６地区で各３回の地区意見交換会を開催しました。

○　地区意見交換会では、「通学環境への配慮や地域活性化の観点から高校を存続するべき。」との意見や、「教育水準の維持のためにも高校の統合は致し方ない。」との意見等がありました。このほか、ICTを活用した教育活動の充実、地域との協働による魅力ある高校づくり、高校における特別支援教育の充実、全国からの生徒募集の導入等、幅広い御意見をいただきました。

○　これらの地区意見交換会における意見等を参考としながら、改定後の基本方針や国の制度改正※等を踏まえ、令和３年７月７日に第２期実施計画（案）を公表しました。

○　案の公表後は、県内６地区延べ１１回の地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施等により、計画策定の進め方に関する意見、統合や学級減の対象校に関する意見、全国からの生徒募集の導入に関する意見等、多くの御意見等をいただきました。その一つ一つを参考としながら検討を重ね、このたび、成案として策定したものです。

○　第２期実施計画は、第１期実施計画に引き続き、「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」の観点に意を用いて取り組むとともに、生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための魅力ある高校づくりを更に推進するものです。

○　今後は、計画に基づく各取組を着実に推進し、未来を担う子どもたちが変化の激しい時代にあっても、夢や志の実現に向けて成長することができるよう取り組みます。

※高等学校教育に関する意識調査：本県高校教育の在り方を検討するための資料を得ることを目的として、中学生や高校生、保護者、教員等を対象に、高校を選ぶ際に重視する点等について調査したものです。

※地域校：２５ページ参照

※国の制度改正：附属資料２（３４ページ）参照

第２　学校・学科の充実

Society5.0※時代が到来しつつあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響等により、将来を見通すことが極めて困難な時代を迎えており、国においても、新時代に対応した高校教育改革を進めているところです。このような中、未来を担う子どもたちには、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え協働的に議論することを通して、課題を解決していく力が求められています。

このことから、全ての高校において、生徒一人一人に対するきめ細かな指導の下、創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるとともに、相互に連携しながら、地域の期待に応え、本県の未来を担う人財※を育成できるよう、次のとおり取り組みます。

１　全ての高校に共通して求められる教育環境

カリキュラム・マネジメント※の適切な実施

○　各校の特色ある教育活動の推進に資するよう、県教育委員会において、地域の実情を踏まえながら、各校に求められる役割や目指すべき学校像等をスクール・ミッションとして明確化します。

○　スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針をスクール・ポリシーとして策定します。

○　スクール・ポリシー等に基づき、教育課程を編成・実施・評価・改善するとともに、地域の人的・物的資源等を効果的に活用しながら、教科等横断的な視点で組織的かつ計画的に教育活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントを適切に実施します。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等

○　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を育みます。

○　地域や社会全体の課題解決に主体的に取り組む人財の育成に向け、STEAM教育※の視点を取り入れながら、探究的な学びを重視した教育活動を展開します。

○　主体的・対話的で深い学びの実現等に向け、県総合学校教育センターによる研修や各校における校内研修等の充実を図ります。

※Society5.0：狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、人工知能（AI）、ロボット等の先端技術を産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく社会を指すものです。

※人財：「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表記しています。

社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の育成
○　小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、特別活動、総合的な探究の時間、各教科における学習等、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育に取り組みます。 ○　キャリア教育の推進に向け、生徒の特性や地域の実情等を考慮しながら、地域・企業等と連携したインターンシップや、大学等と連携したアカデミック・インターンシップ※等の充実を図ります。

※カリキュラム・マネジメント：附属資料２（３４ページ）参照

※STEAM教育：各教科における学習を実社会の問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育であり、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材の養成を目指すものです。

※アカデミック・インターンシップ：研究者や大学等の卒業が前提となる資格を要する職業も含めた就業体験等を指します。例えば、大学や研究機関等の研究活動を先行的に体験する活動等が挙げられます。

2　全日制課程

（1）普通科等の充実

各校の教育環境の充実

○　各校が連携しながら、大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、科学技術分野、スポーツ分野、国際分野、文化芸術分野等、様々な分野で活躍できる人財の育成に向け、地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした取組を推進します。

重点校と各校の連携による取組※

○　各校の生徒の意欲的な学習に資するよう、今後求められる人財の育成に向けた探究活動等の特色ある教育活動の中核的役割を担う重点校を配置し、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ります。

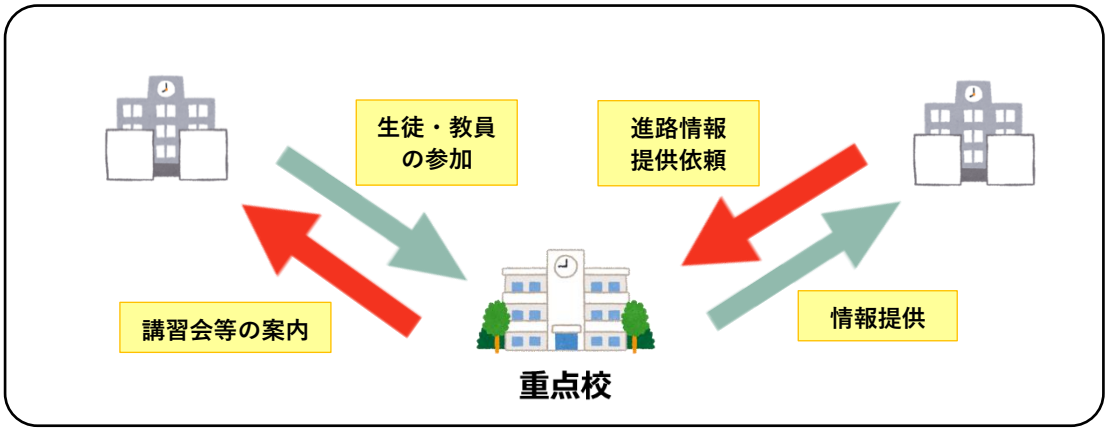
【重点校の配置】

東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

○　重点校が実施する、探究活動に係る研究会や大学教授によるセミナー、大学進学に向けた講習会等に各校の生徒が参加するとともに、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進め、各校の生徒が進路実現に向けた確かな学力を身に付けられるよう取り組みます。

○　重点校と各校の連携による取組について、計画・実行・検証・改善を通して更なる充実を図るとともに、積極的な周知に努めます。また、重点校と各校の円滑な連携に向け、必要な体制の整備等に取り組みます。

【重点校における連携イメージ】



※重点校と各校の連携による取組：附属資料３（３５ページ）参照

各学科の充実

普通科：普通科を設置する高校

○　大学等への進学や就職等に向けた幅広い教育を提供しながら、これからの時代に求められる力を身に付けた、地域を支え社会に貢献する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

○　国における普通科の特色化・魅力化に関する動向を踏まえ、現代社会を巡る複雑な課題や地域社会の課題等に対応するために必要な資質・能力の育成に向け、各校の実情に応じた探究活動を推進します。

理数科：五所川原高校

○　人工知能（AI）やビッグデータ※等の技術革新による社会の変化に対応できる科学的能力や科学的思考力を身に付けた、科学技術人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
五所川原	理　数	➤	変更なし

スポーツ科学科：青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校

○　第８０回国民スポーツ大会の開催（令和８年度予定）を好機として捉え、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できる力を身に付けた、スポーツの推進及び発展に寄与する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
青森北	スポーツ科学	➤	変更なし
弘前実業	スポーツ科学	➤	変更なし

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
八戸西	スポーツ科学	➤	変更なし

※ビッグデータ：従来のシステムでは記録・保管が難しいほど巨大なデータ群であり、これらを解析し活用することで、交通渋滞・医療の充実・犯罪抑止といった社会的課題の解決、生産性の向上、サービス革新等につながることが期待されています。

外国語科：青森南高校

○　中学生のニーズ等を踏まえるとともに、社会の更なるグローバル化等に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成するため、これまで英語やロシア語の学習、国際理解教育等を推進してきた外国語科の学習内容を発展的に見直し、グローバル探究科に改編します。

○　グローバル探究科では、グローバルに活躍するために必要な力を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロレア※の理念に基づき、語学力だけでなく、幅広い教養、課題を発見し解決する能力等を身に付けられる学習の充実を図るとともに、SDGs の実現等に着目した探究活動に国内外の学校等と協働しながら取り組むなど、特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
青森南	外国語	➤	**グローバル探究**

表現科：八戸東高校

○　言語・身体・映像・舞台等の表現活動を通して、表現力を総合的に陶冶し、豊かな情操と創造性を身に付けた、多様性を尊重できる心豊かな社会の形成に寄与する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
八戸東	表　現	➤	変更なし

※国際バカロレア：国際バカロレア機構が実施する「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を教育理念とした国際的な教育プログラムであり、生徒に対し、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与えるものです。

（２）職業教育を主とする専門学科の充実

各校の教育環境の充実

○　基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育むとともに、高度な知識・技能を身に付け、社会の発展に貢献できる人財の育成に向け、大学等との接続を視野に入れた取組や地域・企業等と連携・協力した取組を推進します。

拠点校と各校の連携による取組※

○　各校の生徒の意欲的な学習に資するよう、農業科、工業科及び商業科の高校において、各学科の学習の拠点としての役割を担う拠点校を配置し、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ります。

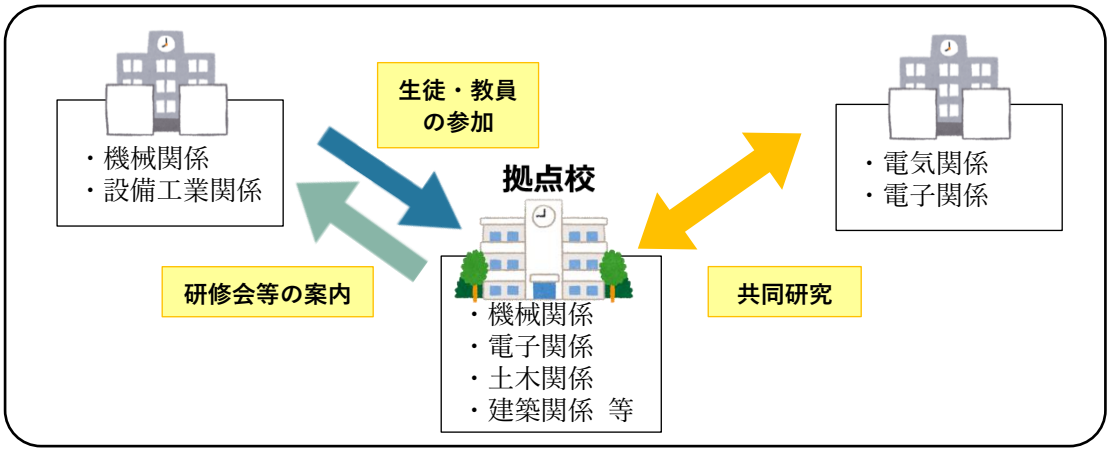
【拠点校の配置】

農業科	工業科	商業科
五所川原農林高校 三本木農業恵拓高校	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

○　拠点校が実施する、熟練技能者による技術講習会、県内企業による出前講座、外部講師による専門的な資格取得講習会等に各校の生徒が参加するとともに、各学科間の横断的な共同研究や学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進め、各校の生徒がより専門的な知識・技能を身に付けられるよう取り組みます。

○　拠点校と各校の連携による取組について、計画・実行・検証・改善を通して更なる充実を図るとともに、積極的な周知に努めます。また、拠点校と各校の円滑な連携に向け、必要な体制の整備等に取り組みます。

【拠点校における連携イメージ（工業科の例）】



※拠点校と各校の連携による取組：附属資料４（３６ページ）参照

各学科の充実

農業科：五所川原農林高校、柏木農業高校、三本木農業恵拓高校、名久井農業高校

○　環境保全型農業、農業の６次産業化、スマート農業※等、これからの農業に必要な資質・能力を身に付け、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、特色ある教育活動を推進するとともに、次のとおり学科改編します。

■　五所川原農林高校においては、森林科学科と環境土木科を統合して環境科学科に改編し、森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等に関する学習の充実を図ります。

■　柏木農業高校においては、生活科学科を生物生産科に統合し、農業生産や農業経営等に加え、地域資源の活用に関する学習の充実を図ります。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
五所川原農林	生物生産	➤	変更なし
	森林科学		**環境科学**
	環境土木		
	食品科学		変更なし
柏木農業	生物生産	➤	**生物生産**
	生活科学		変更なし
	環境工学		
	食品科学		

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
三本木農業恵拓	植物科学	➤	変更なし
	動物科学		
	環境工学		
	食品科学		
名久井農業	生物生産	➤	変更なし
	環境システム		

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
生物生産	農業生産、農業経営、植物バイオテクノロジー等について学習。
植物科学	作物・野菜・草花生産、農業経営、植物バイオテクノロジー等について学習。
動物科学	家畜生産、畜産経営、愛玩動物等について学習。
環境科学	森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等について学習。
環境工学	農業機械、農業土木、環境保全、造園等について学習。
環境システム	施設園芸、生産設備、工業技術等について学習。
食品科学	食品の製造・成分分析・品質管理、食品流通等について学習。

（各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。）

※スマート農業：ロボット技術や情報通信技術等を活用する農業であり、作業の自動化により人的コストを抑制したり、データ解析等を通して農作物の生育や病害虫の発生を予測したりするなど、高度な農業経営を行うものです。

※モノのインターネット化（IoT）：自動車、家電、ロボット、施設等のあらゆるモノがインターネットにつながることを指し、様々な情報のやり取りをすることで新たな付加価値を生み出すことが期待されています。

工業科：青森工業高校、五所川原工科高校、弘前工業高校、十和田工業高校、むつ工業高校（下北地区統合校）、八戸工業高校

○　モノのインターネット化（IoT）※をはじめとする技術の高度化や、環境負荷の軽減、エネルギーの有効活用等、産業社会に求められる変化に対応できる資質・能力を身に付け、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、特色ある教育活動を推進するとともに、次のとおり学科改編します。

■　むつ工業高校（下北地区統合校（２３ページ参照））においては、電気科と設備・エネルギー科を統合して電気・エネルギー科に改編し、発電や送電、電気配線工事のほか、エネルギー等に関する学習の充実を図ります。

［設置学科］

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
青森工業	機　械 電　気 電　子 情報技術 建　築 都市環境	➢	変更なし
五所川原工科	機　械 電子機械 電　気	➢	変更なし
弘前工業	機　械 電　気 電　子 情報技術 土　木 建　築	➢	変更なし

学校名	Ｒ４		Ｒ５～Ｒ９
十和田工業	機械・エネルギー 電　気 電　子 建　築	➢	変更なし
むつ工業 （下北地区統合校 （P23 参照））	機　械 電　気 設備・エネルギー	➢	変更なし **電気・エネルギー**
八戸工業	機　械 電　気 電　子 土　木 建　築 材料技術	➢	変更なし

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
機　械	機械設計、切削加工、溶接、鋳造、組立技術等について学習。
機械・エネルギー	機械設計、機械工作のほか、燃料電池、エネルギー等について学習。
電子機械	機械設計、電子回路設計のほか、コンピュータ制御等について学習。
電　気	発電や送電、電気配線工事、発電機、電動機の仕組み等について学習。
電気・エネルギー	発電や送電、電気配線工事のほか、エネルギー等について学習。
電　子	電子回路設計、組込み技術、コンピュータ制御、情報通信等について学習。
情報技術	プログラミング、データ通信、マルチメディア、データベース等について学習。
建　築	建築物の構造計算、設計・製図、建築工事、法規等について学習。
土　木	測量、道路・鉄道・上下水道等の社会基盤整備、環境保全等について学習。
都市環境	測量、土木施工、都市環境、環境保全等について学習。
材料技術	金属・セラミックス・プラスチック素材の性質や加工方法等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

商業科：青森商業高校、黒石高校、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校

○　経済のグローバル化、ICT の急速な進展等の時代の変化や、ビジネスにおけるマネジメント能力の向上等、経済社会の要請に対応できる資質・能力を身に付け、ビジネスを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	R４		R５～R９
青森商業	商　業 情報処理	➤	変更なし
黒　石	情報デザイン	➤	変更なし
弘前実業	商　業 情報処理	➤	変更なし

学校名	R４		R５～R９
三沢商業	商　業 情報処理	➤	変更なし
八戸商業	商　業 情報処理	➤	変更なし

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
商　業	簿記、マーケティング、商品開発と流通、ビジネス･マネジメント等について学習。
情報処理	プログラミング、ネットワーク活用・管理等について学習。
情報デザイン	マーケティング、グラフィックデザイン等について学習。

（各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。）

水産科：八戸水産高校

○　水産業の６次産業化や技術革新、水産物の資源管理等、水産業を取り巻く状況変化に対応できる資質・能力を身に付け、水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

○　専攻科においては、海技士※（航海・機関）等の人財を育成するための専門性の高い実践的な教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	R４		R５～R９
八戸水産	海洋生産 水産食品 水産工学	➤	変更なし

学校名	R４		R５～R９
八戸水産 （専攻科）	漁　業 機　関	➤	変更なし

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
海洋生産	航海、船舶の運用、漁業、海洋生物、水産増養殖等について学習。
水産食品	水産食品の加工・製造・安全管理、水産物の流通等について学習。
水産工学	船舶機関の運転・管理、機械設計工作、電気機器等について学習。

※海技士：「船舶職員及び小型船舶操縦者法」に定める大型船舶を運航するための資格を有する者です。

家庭科：弘前実業高校、百石高校

○　少子高齢化、食育の推進、ライフスタイルの多様化、消費生活の複雑化等、生活文化の変化に対応できる資質・能力を身に付け、生活産業※を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	R４		R５～R９
弘前実業	家庭科学 服飾デザイン	➤	変更なし

学校名	R４		R５～R９
百　石	食物調理	➤	変更なし

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
家庭科学	生活文化、栄養、調理、介護、保育等について学習。
服飾デザイン	被服製作、ファッションデザイン、服装の変遷等について学習。
食物調理	栄養、調理、食生活等について学習。

看護科：黒石高校

○　少子高齢化や医療技術の進歩等、医療を取り巻く社会環境の変化に対応できる資質・能力を身に付け、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する人財を育成するため、専攻科と一体となった５年間一貫した専門性の高い実践的な教育活動を推進します。

［設置学科］

学校名	R４		R５～R９
黒　石 (専攻科含む。)	看　護	➤	変更なし

［学科の概要］

学科名	主な学習内容
看　護	人体の構造と機能、疾病、看護技術・倫理等について学習。

※生活産業：衣食住、ヒューマンサービス（保育、福祉）等に関する産業を指します。

（３）総合学科の充実

各校の教育環境の充実
総合学科：青森中央高校、木造高校、七戸高校、大湊高校（下北地区統合校）
○　「産業社会と人間」の学習を通して、生徒一人一人に自身の個性を発見させるとともに、高校卒業後の進路を含めた自己の在り方・生き方を考察させることにより、将来を見据えた主体的な系列選択を促します。 ○　多様な選択科目の充実を図るため、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用するとともに、各系列の連携による教育活動等を進め、生徒の幅広い進路志望に対応します。 ○　生徒数の減少や生徒の学習ニーズに対応するため、地域の実情等を踏まえながら、引き続き、系列の在り方について各校と検討し、見直します。

［設置系列］

学校名	Ｒ４
青森中央	人文科学
	自然科学
	生活科学
	情報ビジネス
	美　術
木　造	人文科学
	自然科学
	流通ビジネス
	情報システム

学校名	Ｒ４
七　戸	人文科学
	自然科学
	情報ビジネス
	福祉健康
大　湊 （下北地区統合校※ (P23 参照)）	人文科学
	自然科学
	健康福祉
	情報ビジネス

※下北地区統合校の系列については、大湊高校の系列を基本としつつ、開設準備委員会※の意見を踏まえながら検討します。

［系列の概要］

系列名	主な学習内容
人文科学	文化的、社会的な視野に立った物事の考え方について学習。
自然科学	科学的、理数的な視野に立った物事の考え方について学習。
情報ビジネス	会計、商品開発、情報処理、マルチメディア等について学習。
流通ビジネス	会計、マーケティング、商品開発等について学習。
情報システム	マルチメディア、ネットワークシステム等について学習。
生活科学	栄養、調理、保育、被服等について学習。
福祉健康	高齢者の介護・健康増進・体力向上等について学習。
健康福祉	社会福祉、保育、被服、栄養等について学習。
美　術	絵画、デザイン、陶芸、映像表現、美術史等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

※開設準備委員会：２６ページ参照

（４）多様な教育制度の充実

併設型中高一貫教育：三本木高校・三本木高校附属中学校
○　生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸長し進路志望を実現できるよう、高校と附属中学校の教員が交流し双方の授業改善を図るとともに、先取り学習※に取り組むなど、６年間を見通した計画的・継続的な教育活動の更なる充実を図ります。また、高校と附属中学校の生徒による異年齢交流を通して、社会性や豊かな人間性を育成します。

全日制普通科単位制：青森東高校、弘前南高校、田名部高校、八戸北高校
○　生徒一人一人の興味・関心、適性、進路志望等に応じた幅広い選択科目や学校設定科目を開設するとともに、少人数できめ細かな指導等の指導体制の工夫・改善により個に応じた指導※の充実に取り組みます。また、大学が開設する科目の履修やボランティア活動等、学校外の学修や体験活動等における成果の単位認定を通して、生徒の学習意欲の向上を図ります。

総合選択制：弘前実業高校
○　多様な選択科目や学校設定科目を開設し、生徒が自身の興味・関心等に応じて、所属する学科の科目に加え他学科の科目を学習することを通して、幅広い知識や柔軟な発想を身に付けられるよう取り組みます。また、異なる専門性や価値観を有する各学科の生徒が学び合うことにより、新たな価値を創出するために必要な力を養います。

※先取り学習：併設型中高一貫教育校等において認められている教育課程の編成に係る特例を活用し、高校における指導内容の一部を附属中学校等の段階で学習するものです。

※個に応じた指導：生徒一人一人の特性や学習進度等に応じて、指導方法・教材を柔軟に提供するなどの「指導の個別化」や、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、生徒自身が最適な学習となるよう調整する「学習の個性化」を実現する指導です。

3　定時制課程・通信制課程

定時制課程の充実：北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、田名部高校、八戸中央高校
○　様々な事情を抱える生徒に対応するため、家庭・地域等と連携しながら、生徒一人一人に寄り添った指導や支援を行います。 ○　各校の教育環境の充実を図るため、スクールライフサポーター※等、専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等に取り組みます。

通信制課程の充実：北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校
○　生徒の多様な学習ニーズ等に対応できるよう、ICT を活用することにより、時間や場所の制約を超えて学習・相談できる体制の構築に取り組みます。 ○　高校入学後の進路変更を希望する生徒に対し、後期入学や年度中途からの転入学・編入学の実施を通して、幅広く学びの機会を提供します。

※スクールライフサポーター：教員と連携しながら、特別な支援を必要とする生徒に対する授業補助や学校生活支援、社会性向上支援等を行う専門スタッフです。

第３　学校規模・配置

基本方針（P9～P12）

生徒数が減少する中にあっても、中学生の進路志望等に応じた学校・学科の選択肢を確保するとともに、生徒が集団の中で様々な個性や多様な価値観に触れ、協働することにより、確かな学力、逞しい心、学校から社会への円滑な移行に必要な力等を身に付けることができるよう、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に取り組みます。

１　全日制課程

（１）中学校卒業者数の推移（見込み）

（単位：人）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
東青地区	2,481	2,498	2,389	2,251	2,311	2,198	1,933
西北地区	983	939	959	873	880	827	758
中南地区	2,122	1,963	1,945	1,972	1,908	1,937	1,731
上北地区	1,585	1,658	1,643	1,503	1,579	1,481	1,373
下北地区	581	530	566	472	550	479	409
三八地区	2,438	2,322	2,298	2,235	2,214	2,270	2,042
県　計	10,190	9,910	9,800	9,306	9,442	9,192	8,246
前年比較	－	△280	△110	△494	136	△250	－
期間内増減	△2,167	△998					△946

（２）募集学級数の推移（見込み）

（単位：学級）

	第１期	第２期実施計画		R10～R14
	R４	R５～R９	期間内増減	R14
東青地区	46	42	△4	37
西北地区	19	16～17	△2～△3	14～15
中南地区	39	36	△3	33
上北地区	34	31～32	△2～△3	29～30
下北地区	14	11～12	△2～△3	10～11
三八地区	39	36～37	△2～△3	32～33
県　計	191	172～176	△15～△19	155～159

各地区の募集学級数については、各地区における中学校卒業者数（見込み）のほか、高校進学率、私立高校への入学状況、地区をまたいだ入学状況等を勘案して推計しています。

また、地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、地域校を配置する地区の募集学級数は幅を設けて示しています。

（３）地区ごとの学校規模・配置計画

■ 東青地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）　（単位：人・学級）

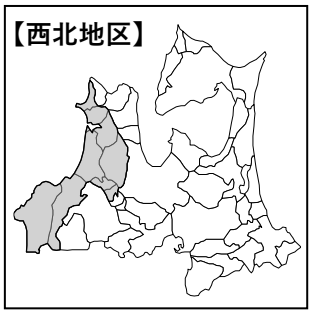
	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	2,481	2,498	2,389	2,251	2,311	2,198	1,933
前年比較	－	17	△109	△138	60	△113	－
期間内増減	△441	△283					△265
募集学級数	46	42					37
期間内増減	△8	△4					△5

②各校の学校規模　（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
青　森	普　通	6	6		重点校
東青地区統合校	普　通	－	6	＋６	R９ 募集開始
青森西	普　通	6	0	△６	R９ 募集停止
浪　岡	普　通	2	0	△２	R10 年度末閉校
青森東	普　通	6	6		
青森北	普　通	4	4		
	スポーツ科学	1	1		
青森南	普　通	4	3	△１	外国語科をグローバル探究科に改編
	グローバル探究	－	1	＋１	
	外国語	1	0	△１	
青森中央	総　合	5	4	△１	
青森工業	機　械	1	1		拠点校
	電　気	1	1		
	電　子	1	1		
	情報技術	1	1		
	建　築	1	1		
	都市環境	1	1		
青森商業	商　業	4	4		拠点校
	情報処理	1	1		
地区計		４６	４２	△４	

【参考】東青地区統合校の概要

統合対象校
青森西高校（普通科６学級） 浪岡高校（普通科２学級）
統合年度
令和９年度
設置場所
青森西高校の校地（既存校舎を活用する予定）
学科構成
普通科６学級
統合校の方向性
開設準備委員会において、次のような「統合校が目指す姿」及び「統合校における教育活動の例」を踏まえ、統合校の名称のほか、具体的な取組等について協議します。 **【統合校が目指す姿】** ■　生徒の個性や能力を伸ばし、大学等への進学や就職等、生徒一人一人の幅広い進路志望の実現に寄与する高校 ■　地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校 **【統合校における教育活動の例】** ■　生徒一人一人の学習ニーズに応じたきめ細かな指導や、社会的・職業的自立に向けた系統的なキャリア教育の推進 ■　地域行事への積極的な参加等、統合の対象となる学校がこれまで取り組んできた、地域の歴史・文化に対する理解や愛着を深める教育活動の推進 ・浪岡北畠まつりへの参加や笛・ねぶた灯篭づくり等 ■　地域資源を活用したボランティア活動等、統合の対象となる学校がこれまで取り組んできた、社会に積極的に関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動や豊かな心、健やかな体等の生きる力を育む部活動の推進 ・「青西観光大使」や「青西おもてなし隊」等の活動を通して、生徒が主体的に企画・運営する「青西人づくり・街づくりプロジェクト」等 ・浪岡高校における空き缶壁画の制作・展示等 ・浪岡地域において築き上げてきたバドミントンの活動等



■ 西北地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）

（単位：人・学級）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	983	939	959	873	880	827	758
前年比較	－	△44	20	△86	7	△53	－
期間内増減	△375	△156					△69
募集学級数	19	16～17					14～15
期間内増減	△8	△2～△3					△2

地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、募集学級数は幅を設けて示しています。

②各校の学校規模

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
五所川原	普　通	4	4		重点校
	理　数	1	1		
木　造	総　合	4	3	△１	
鰺ヶ沢	普　通	1	※　1		地域校
五所川原工科	普　通	2	2		
	機　械	1	1		
	電子機械	1	1		
	電　気	1	1		
五所川原農林	生物生産	1	1		拠点校 森林科学科と環境土木科を統合し、環境科学科に改編
	環境科学	－	1	＋１	
	森林科学	1	0	△１	
	環境土木	1	0	△１	
	食品科学	1	1		
地区計		１９	１７	△２	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することとなります。

■ 中南地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）

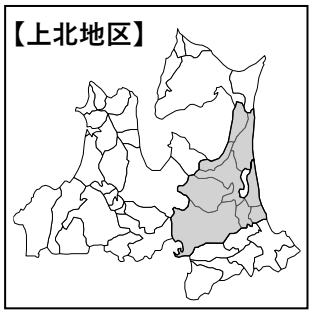
（単位：人・学級）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	2,122	1,963	1,945	1,972	1,908	1,937	1,731
前年比較	－	△159	△18	27	△64	29	－
期間内増減	△432	△185					△206
募集学級数	39	36					33
期間内増減	△5	△3					△3

②各校の学校規模

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
弘　前	普　通	6	6		重点校
弘前中央	普　通	6	5	△１	
弘前南	普　通	6	5	△１	
黒　石	普　通	3	3		
	情報デザイン	1	1		
	看　護	1	1		
柏木農業	生物生産	1	1		生活科学科を生物生産科に統合
	環境工学	1	1		
	食品科学	1	1		
	生活科学	1	0	△１	
弘前工業	機　械	1	1		拠点校
	電　気	1	1		
	電　子	1	1		
	情報技術	1	1		
	土　木	1	1		
	建　築	1	1		
弘前実業	商　業	2	2		
	情報処理	1	1		
	家庭科学	1	1		
	服飾デザイン	1	1		
	スポーツ科学	1	1		
地区計		３９	３６	△３	



■ 上北地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）

（単位：人・学級）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	1,585	1,658	1,643	1,503	1,579	1,481	1,373
前年比較	－	73	△15	△140	76	△98	－
期間内増減	△377	△104					△108
募集学級数	34	31～32					29～30
期間内増減	△9	△2～△3					△2

地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、募集学級数は幅を設けて示しています。

②各校の学校規模

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
三本木	普　通	6	6		重点校
三　沢	普　通	※　6	5	△１	
野辺地	普　通	2	1	△１	
七　戸	総　合	3	3		
百　石	普　通	2	2		
	食物調理	1	1		
六ヶ所	普　通	1	※　1		地域校
三本木農業恵拓	普　通	2	2		拠点校
	植物科学	1	1		
	動物科学	1	1		
	環境工学	1	1		
	食品科学	1	1		
十和田工業	機械・エネルギー	1	1		
	電　気	1	1		
	電　子	1	1		
	建　築	1	1		
三沢商業	商　業	2	2		
	情報処理	1	1		
地区計		３４	３２	△２	

※三沢高校については、第１期実施計画に基づき令和４年度に学級減を予定していましたが、第２期実施計画期間の中学校卒業者数の増加・減少の幅が大きくなることが見込まれ、これらの変動に対応する必要があることから、第２期実施計画期間に学級減を行います。

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することとなります。

■ 下北地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）

（単位：人・学級）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	581	530	566	472	550	479	409
前年比較	－	△51	36	△94	78	△71	－
期間内増減	△108	△102					△70
募集学級数	14	11～12					10～11
期間内増減	△3	△2～△3					△1

地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、募集学級数は幅を設けて示しています。

②各校の学校規模

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
田名部	普　通	5	5		重点校
下北地区統合校	総　合	－	3	＋３	R９ 募集開始
	機　械	－	1	＋１	
	電気・エネルギー	－	1	＋１	
大　湊	総　合	4	0	△４	R９ 募集停止 R10 年度末閉校
むつ工業	機　械	1	0	△１	
	電　気	1	0	△１	
	設備・エネルギー	1	0	△１	
大　間	普　通	2	※　2		地域校
地区計		１４	１２	△２	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することとなります。

【参考】下北地区統合校の概要

統合対象校
大湊高校（総合学科４学級） むつ工業高校（工業科３学級：機械／電気／設備・エネルギー）
統合年度
令和９年度
設置場所
むつ工業高校の校地（校舎を新たに整備する予定）
学科構成
総合学科３学級 工業科２学級（機械／電気・エネルギー） ※総合学科の系列については、大湊高校の系列（人文科学／自然科学／健康福祉／情報ビジネス）を基本としつつ、開設準備委員会の意見を踏まえながら検討します。
統合校の方向性
開設準備委員会において、次のような「統合校が目指す姿」及び「統合校における教育活動の例」を踏まえ、統合校の名称のほか、具体的な取組等について協議します。 **【統合校が目指す姿】** ■　総合学科と工業科の併置校として、生徒の興味・関心等に応じた多様な学習により、幅広い知識や視野を身に付けさせ、生徒一人一人の進路志望を実現する高校 ■　生徒のニーズや地域の特性を踏まえた系列を設置し、生徒の個性や能力を伸長させ、豊かな社会の実現に寄与する高校 ■　ものづくりに関する実践的な学習を通して専門的な知識・技術を身に付けさせ、地域産業の発展に貢献する高校 **【統合校における教育活動の例】** ■　学科や系列の枠を越えた探究活動や科目履修等、総合学科と工業科の連携による教育活動の推進 ■　地域の社会人や有識者の積極的な活用や多様な選択科目の開設等、生徒の進路意識を高める教育活動の推進 ■　エネルギーや介護福祉等に関する科目の開設等、地域の特性や産業構造を考慮した教育活動の推進 ■　熟練技能者による技術指導や大学・企業との連携による最先端技術の学習、高度な職業資格の取得等、高い専門性を身に付けさせる教育活動の推進

■ 三八地区の学校規模・配置 ■

①中学校卒業者数・募集学級数の推移（見込み）

（単位：人・学級）

	第１期	第２期実施計画					R10～R14
	R４	R５	R６	R７	R８	R９	R14
中学校卒業者数	2,438	2,322	2,298	2,235	2,214	2,270	2,042
前年比較	－	△116	△24	△63	△21	56	－
期間内増減	△434	△168					△228
募集学級数	39	36～37					32～33
期間内増減	△6	△２～△３					△4

地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、募集学級数は幅を設けて示しています。

②各校の学校規模

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　考
		R４	R５～R９	期間内増減	
八　戸	普　通	6	6		重点校
八戸東	普　通	5	4	△１	
	表　現	1	1		
八戸北	普　通	6	5	△１	
八戸西	普　通	5	5		
	スポーツ科学	1	1		
三　戸	普　通	1	※　1		地域校
名久井農業	生物生産	1	1		
	環境システム	1	1		
八戸水産	海洋生産	1	1		
	水産食品	1	1		
	水産工学	1	1		
八戸工業	機　械	1	1		拠点校
	電　気	1	1		
	電　子	1	1		
	土　木	1	1		
	建　築	1	1		
	材料技術	1	1		
八戸商業	商　業	2	2		
	情報処理	1	1		
地区計		３９	３７	△２	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することとなります。

（４）地域校への対応

地域校の規模・配置に係る対応

○　学校規模の標準を満たさない高校のうち、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校を地域校として配置します。

【地域校の配置】

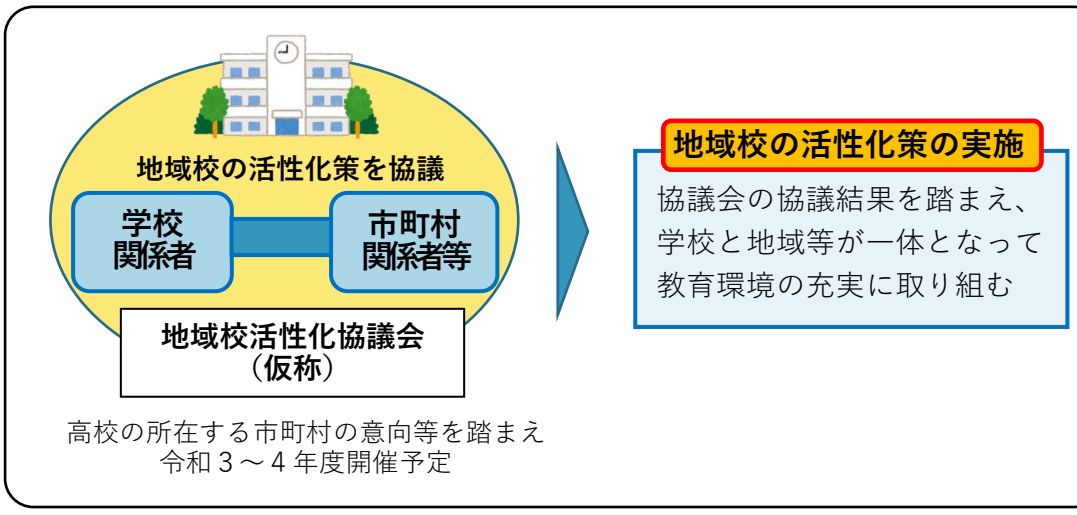
東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
－	鰺ヶ沢高校	－	六ヶ所高校	大間高校	三戸高校

○　地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等※により対応します。なお、１学級規模の地域校が基準に該当した場合、翌年度の募集停止を基本とし、高校への通学が困難となる地域の生徒の通学への対応等について、当該高校の所在する市町村等と協議を行います。

地域校の活性化に向けた対応

○　地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会（仮称）における協議結果等を踏まえ、地域等と連携・協力しながら、自然、歴史、文化、産業等の地域資源を活用した教育活動や地域課題の解決に向けた教育活動を進めるなど、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に取り組みます。

【学校と地域等の連携イメージ】



※基本方針に定める基準等：
- ２学級規模の地域校については、入学者数が１学級規模の募集人員である４０人以下の状態が２年間継続した場合、原則として翌年度に１学級規模とします。
- １学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が２年間継続して２分の１未満（２０人未満）となった場合には、募集停止等に向けて、当該高校の所在する市町村等と協議します。

（5）統合に当たっての留意事項

○　統合の対象となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び、卒業することを基本とします。

○　統合の対象となる学校の教育活動を維持できるよう、教育課程の実施等に要する適正な教職員配置に加え、学校行事をはじめとする特別活動や部活動等の生徒の活動の場の確保に努めます。

○　統合の対象となる学校の関係者等で構成する開設準備委員会をあらかじめ設置し、統合校の教育活動の充実に向け、統合校の新たな名称、目指す人財像、特色ある教育活動等について協議するとともに、統合の対象となる学校間における連携の在り方や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について情報共有します。

○　開設準備委員会における協議結果を踏まえ、統合校の教育課程の編成等、開校に向けた具体的な準備を進めるため、統合の対象となる学校内に開設準備室を設置します。

○　統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、統合校が引き継ぎます。

【統合の実施年度】

	R５	R６	R７	R８	R９	備　考
東青地区統合校			開設準備		**開校 募集開始**	
【統合対象校】 ・青森西 ・浪　岡			開設準備 委員会	開設準備室 （青森西）	**募集停止**	R10年度末 閉校
下北地区統合校			開設準備		**開校 募集開始**	
【統合対象校】 ・大　湊 ・むつ工業			開設準備 委員会	開設準備室 （むつ工業）	**募集停止**	R10年度末 閉校

2　定時制課程・通信制課程

（1）定時制課程

（単位：学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第１期	第２期実施計画		備　　考
		Ｒ４	Ｒ５～Ｒ９	期間内増減	
北　斗	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
五所川原	普　通	1	1		
尾上総合	総合・Ⅰ部	1	1		
	総合・Ⅱ部	1	1		
	総合・Ⅲ部	1	1		
三　沢	普　通	1	1		
田名部	普　通	1	1		
八戸中央	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
県　計		１２	１２	±０	

（2）通信制課程

（単位：人）

学校・学科 ＼ 年度・募集人員等		第１期	第２期実施計画		備　　考
		Ｒ４	Ｒ５～Ｒ９	期間内増減	
北　斗	普　通	200	200		
尾上総合	普　通	150	150		
八戸中央	普　通	150	150		
県　計		500	500	±０	

第４　魅力ある高校づくり

基本方針（P13～P14）

これからの高校教育においては、生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するために各校の特色化・魅力化を図ることが求められています。
このことを踏まえ、「第２　学校・学科の充実」や「第３　学校規模・配置」による教育環境の充実に加え、学校内外の教育資源を積極的に活用しながら、中学生から選ばれる魅力ある高校となるよう、各校の実情に応じて次のとおり取り組みます。

１　学校・家庭・地域等との連携の推進

各校種等との連携の推進

○　生徒数が減少する中にあっても、生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等の多様化に対応するとともに、集団の中で様々な個性や多様な価値観に触れることが難しいなど小規模校における課題に対応するため、教員研修や学校行事等において、各校が相互に連携・協力した取組を進めます。

○　小学校や中学校と連携し、高校の学びに触れる機会の提供や各発達段階に応じた教育活動の充実等に取り組みます。

○　国内外の高校や大学等と連携した共同事業体（コンソーシアム）の構築等により、グローバルな社会課題に係る探究活動や高校段階から大学レベルの教育・研究に取り組むなど、生徒の進路志望に応じた高度な学びを提供します。

【共同事業体（コンソーシアム）の構築イメージ】

目　的

SDGs の実現等をテーマとした探究活動の質の向上に向け、高大連携による高度な授業や、研究機関との連携による共同研究等を実施するネットワークを形成する

ネットワークを活用した先取り学習等の学習プログラムや、質の高い探究活動によって得られた学習成果、指導事例等を県内全ての高校生・教員に提供し、共有可能とするもの

具体的な取組例

・SDGs の実現等をテーマとした研究大会の開催
・学習成果や指導事例のデータベース化

県内全ての高校生・教員に高度な学習プログラムや、探究活動の好事例を提供し、県全体の高校教育の質を向上

【共同事業体（コンソーシアム）における取組例】

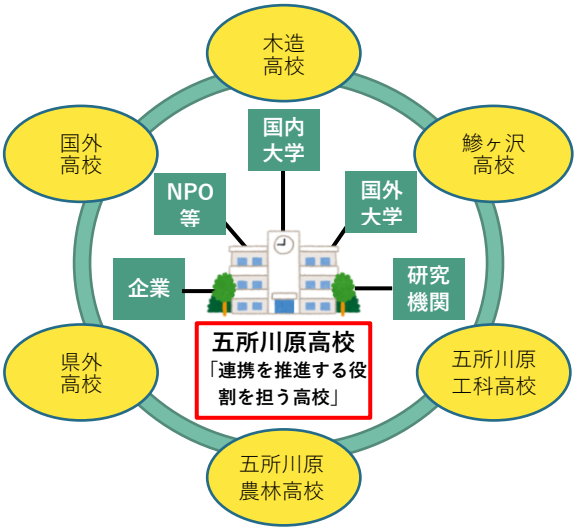
大学や研究機関、国外の教育機関等との連携体制を構築しながら、理数分野における研究活動を行っている五所川原高校、地域と連携し地域資源を活用した探究活動を行っている木造高校や鰺ヶ沢高校、地域や企業と連携し、ものづくりや農業等の専門性を高める研究活動を行っている五所川原工科高校や五所川原農林高校等により共同事業体（コンソーシアム）を構築する。

想定されるテーマ

・台湾の教育機関と連携し、グローバルな視点に立った共同研究
・地域の農作物の輸出促進に向けた探究活動
・地域活性化に向けた調査・研究　等

期待される効果

各校の特色ある教育活動の推進に当たって、共同事業体（コンソーシアム）を活用しながら、それぞれの高校等の教育資源を共有することで、単独では行うことが難しい領域横断的な学びや、研究機関の最先端の理論を取り入れることなどが可能となり、教育の質の向上が期待できる



家庭・地域等との連携の推進

○　社会に開かれた教育課程※の理念の下、学校・家庭・地域が一体となり、より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を共有し、生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育みます。

なお、コミュニティ・スクール※については、導入校における成果や課題の検証を踏まえ、他校においても段階的に取り組みます。

○　総合的な探究の時間や学校設定科目等において、高校の所在する地域のみならず、自身が居住する地域や生まれ育った地域等について理解を深める学習である「あおもり創造学」を進めるなど、学校と地域等が協力しながら、生徒一人一人の「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成に取り組みます。

【あおもり創造学の取組内容例】
・地域における伝統芸能や史跡、特産の農作物、郷土料理、地域特有の動植物等の地域資源を活用した教科等横断的な研究
・県内定着促進等、人口減少対策をテーマとした調査・研究
・県内企業や商工関係団体等との連携により県内の産業や経済を学び、起業について考える学習

※社会に開かれた教育課程：各校の教育課程を介し、より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を学校と社会が共有するとともに、育成を目指す資質・能力や教育内容を明確にしながら、社会との連携・協働により実現を図るものです。

※コミュニティ・スクール：保護者や地域住民等が学校運営に参画する「学校運営協議会」を設置する学校であり、学校運営に地域の声を積極的に生かしながら特色ある学校づくりを進めていくことを目指すものです。本県の県立高校では令和３年度から黒石高校に導入しています。

2　教育活動の充実に向けた取組

各校に関する情報発信の充実

○　中学校における進路指導や中学生の進路選択に資するよう、各校のホームページの充実を図るとともに、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーをはじめ、各校の特色を生かした魅力ある教育活動等について、教育広報あおもりけんや県教育委員会ホームページ等、様々な広報媒体を活用しながら、充実した情報発信に取り組みます。

特別な支援を必要とする生徒等への対応

○　インクルーシブ教育の理念の下、特別な支援を必要とする生徒一人一人の実情に応じた支援に取り組むため、各校において特別支援教育コーディネーターを指名し校内研修等の充実を図るとともに、特別支援学校と連携した教員研修や人事交流等を推進します。

　また、北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校の定時制課程において実施している通級による指導については、特別な支援を必要とする生徒の学びの連続性が確保され、個々のニーズ・特性に応じた指導や必要な支援が行われるなど、成果が見られることから、他校への拡充等を検討します。

○　様々な悩みを抱える生徒や家庭環境に複雑な事情を抱える生徒等に対応するため、医療・福祉等関係機関と連携するとともに、スクールカウンセラー※やスクールソーシャルワーカー※等、専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等に取り組みます。

　また、不登校の生徒等に対する支援として、学びの機会の確保や学校とのつながりの維持に資するよう、ICT を活用したオンラインによる学習活動等に取り組みます。

ICT の活用による教育活動の充実

○　生徒一人一人に情報活用能力を育成するため、生徒一人一台の端末等、充実した ICT 環境を提供し、ICT を有効に活用した教育活動を進めます。

○　個別最適な学びと協働的な学びを実現する観点から、教員による従来の対面指導に加え、インターネットの活用による遠隔教育やオンデマンドの動画教材等、学習場面に応じて効果的に ICT を取り入れた授業づくりを進めます。

○　各教員が ICT の特性を生かした教育活動を展開できるよう、県総合学校教育センターによる出前講座やオンライン研修、各校における校内研修等、ICT の活用に係る実践的な教員研修の充実を図ります。

※スクールカウンセラー：児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有し、生徒の生活上の問題や悩みに対する相談・カウンセリング、教職員及び保護者に対する助言・援助を行う専門スタッフです。

※スクールソーシャルワーカー：社会福祉の専門的な知識を活用し、様々な課題を抱える生徒を取り巻く環境に働きかけ、学校・家庭・地域の関係機関をつなぎ、課題解決に向けて支援する専門スタッフです。

施設・設備の充実

○　老朽化の解消等により安全・安心な教育環境を確保するとともに、各校が新学習指導要領に対応しながら、特色ある教育活動や各学科の専門性を生かした教育活動を展開できるよう、計画的な施設・設備の整備を図ります。

【施設・設備の整備例】
・校舎のバリアフリー化等を含めた長寿命化改修
・下北地区統合校における複数学科の設置に向けた必要な施設・設備の整備

全国からの生徒募集の導入

○　県外から目標を持った生徒を受け入れることにより、近年、入学者数が募集人員に満たない高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら、全国からの生徒募集を導入します。

○　導入校の決定に当たっては、本県中学生の入試環境に配慮するため、候補校を次のとおりとした上で、各校の魅力化や県外生徒の生活環境に関する市町村等の支援内容等を考慮します。

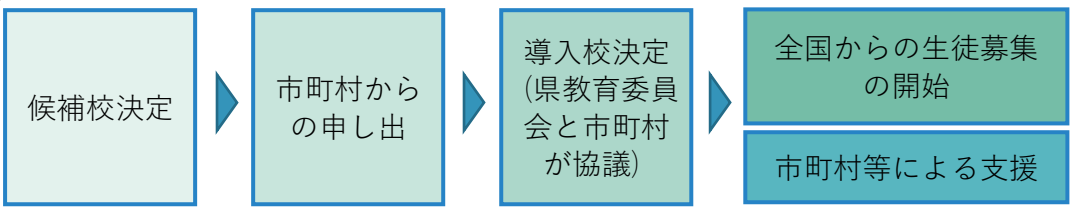
【導入校の決定方法】

以下のいずれかに該当する高校（候補校）のうち、高校が所在する市町村から市町村等による支援を前提とした導入の申し出があった高校について、県教育委員会が市町村と協議した上で導入校とする。

①　第２期実施計画において地域校とする高校
②　過去５年の定員充足率の平均（過去５年間に学級減や学科改編等があった場合はその時点からの平均）が 90%以下の高校（第２期実施計画期間中における統合対象校を除く）

○　全国からの生徒募集は令和５年度入学者選抜からの導入を基本とします。なお、県外生徒の生活環境の確保等の準備期間を要する導入校については令和６年度入学者選抜から導入します。

【全国からの生徒募集開始までの流れ】



※市町村等による支援の例
・下宿や食事の提供、生徒の世話等、県外生徒の生活環境の確保
・高校の魅力づくりのための支援

第５ 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

基本方針（P15）

生徒数の更なる減少が進む中にあっても教育環境の充実を図り、本県の最重要課題である人口減少克服に向けて生徒一人一人に郷土を愛する心を育むため、学校と地域等が一体となり、県全体が一丸となって高校生を育てる教育に取り組むとともに、次のような取組を進めるなど、県民の理解と協力の下で県立高校教育改革を推進します。

１　青森県立高等学校教育改革推進計画の進捗管理

○　高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業者数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第２期実施計画の取組状況について検証し、必要に応じて実施計画を見直します。

２　次期実施計画の策定

○　県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す基本方針については、青森県立高等学校将来構想検討会議からの答申を踏まえ、平成３０年度からおおむね１０年間を計画期間として策定したものですが、今後も社会の急速な変化が予想されるとともに、中学校卒業者数の更なる減少が見込まれている状況であり、引き続き、教育環境の充実に取り組む必要があります。

○　このことから、令和１０年度以降を計画期間とする次期実施計画を策定することとし、その策定に当たっては、県民の皆様から御意見を伺う機会を設けながら、新たな時代を主体的に切り拓く子どもたちを育むための高校教育の在り方を検討してまいります。

資料１：主体的・対話的で深い学び

■　知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

○　「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の３つの柱で再整理。

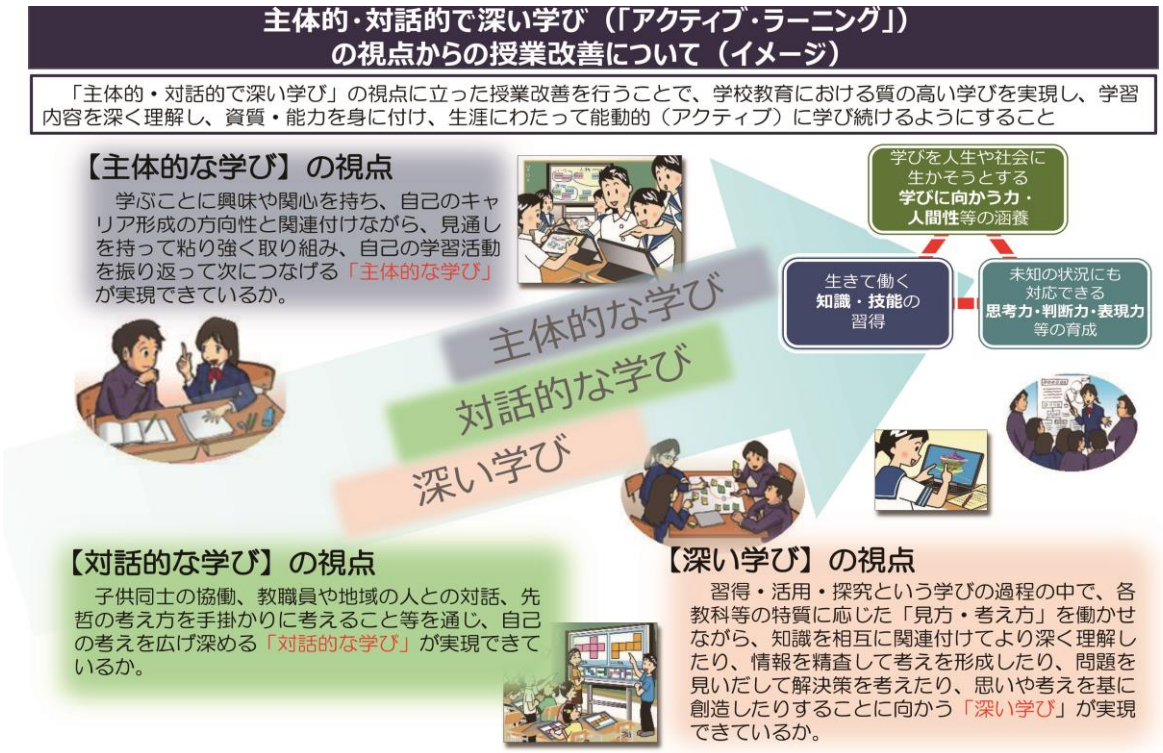
○　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

選挙権年齢が１８歳以上に引き下げられ、生徒にとって政治や社会が一層身近なものとなっており、高校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められるため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要。

※参考：高等学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示

（平成 30 年 3 月 30 日　文部科学省通知）

出典：文部科学省



資料２：国の制度改正／カリキュラム・マネジメント

■　国の制度改正（高校の特色化・魅力化）

規則改正等により、以下の新たな制度が導入されることとなったもの。

○　各高校に期待される社会的役割等の再定義

高校の設置者は、高校が下記の「三つの方針」を策定する前提として、各高校に期待される社会的役割等（いわゆるスクール・ミッション）を再定義することが望まれる。

○　高校における「三つの方針」の策定・公表

高校は、各高校の存在意義や社会的役割等に基づき、当該学校、全日制・定時制・通信制の課程又は学科ごとに以下の方針（いわゆるスクール・ポリシー）を定め、公表する。

・高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
・教育課程の編成及び実施に関する方針
・入学者の受け入れに関する方針

※参考：学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について
（令和３年３月 31 日　文部科学省通知）

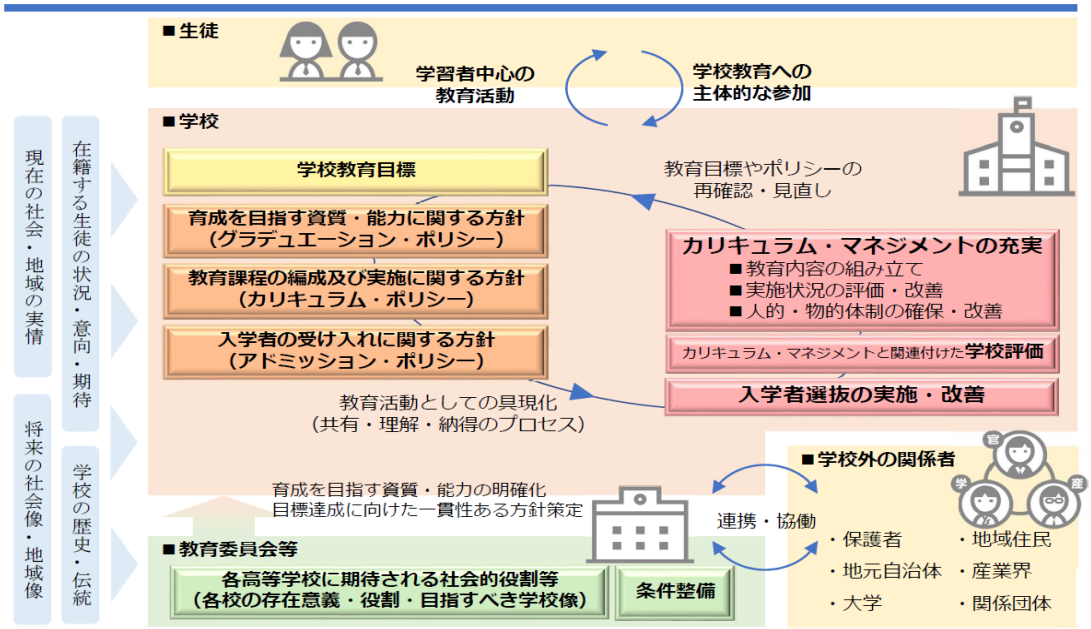
■　カリキュラム・マネジメント

○　各高校においてはスクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメントを適切に行い、教育課程や個々の授業、入学者選抜の在り方等について組織的かつ計画的に実施するとともに、PDCA サイクルを通じて不断の改善を図る必要がある。

※参考：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
（令和３年１月 26 日　中央教育審議会答申）

出典：文部科学省

スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動の実施・改善（イメージ）



資料３：重点校と各校の連携による主な取組

青森高校：即興型英語ディベート青森交流会

日程：平成 30 年 7 月 28 日～7 月 29 日
場所：青森高校
参加：青森高校、青森南高校、弘前高校、弘前南高校、田名部高校、八戸高校、八戸聖ウルスラ学院高校の７校から生徒３７名

即興型英語ディベート青森交流会は、各校の生徒たちが３人１組のチームとなり、設定されたテーマについて肯定、否定側に分かれて英語で討論することにより、英語によるディベートの手法に慣れるとともに、各校の交流を行うものです。

五所川原高校：大学進学情報の提供

日　程：随時
場　所：五所川原高校
提供先：進学情報の提供を希望する高校の教員１２名

大学進学情報の提供は、五所川原高校が収集してきた大学入試に係る最新の情報や指導のノウハウ等を提供し、連携する高校における大学進学を希望する生徒の進路志望の実現に資するものです。また、教員同士の情報共有を通して、指導力向上にもつなげるものです。

弘前高校:東京大学生によるオンラインセミナー

日程：令和２年 12 月５日
場所：弘前高校
参加：弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校の３校から生徒２１名

東京大学生によるオンラインセミナーは、首都圏に比べ、情報不足等の制約を抱える地方の受験生と現役の東京大学の学生とがオンライン会議システムを活用し、交流することを通して、受験における心構えや効果的な学習方法等について理解を深めるものです。

三本木高校：英語指導力向上の研究公開

日程：令和２年２月４日～２月５日
場所：三本木高校
参加：上北地区の中学校４校、木造高校、十和田西高校、三沢高校、十和田工業高校、八戸東高校の９校から教員１１名

英語指導力向上の研究公開は、外部機関と連携しながら三本木高校が研究・開発した音読等の定着活動を重視した英語の授業モデル（三本木メソッド）を公開し、大学教授から助言をいただきながら教員の指導力向上を図るものです。

田名部高校：公務員試験対策セミナー

日程：令和２年１月８日
場所：田名部高校
参加：田名部高校、大湊高校、むつ工業高校の３校から生徒２９名、田名部高校、大湊高校の２校から教員３名

公務員試験対策セミナーは、公務員志望生徒を対象に国家・地方公務員試験対策を目的として開催するものであり、専門学校講師から一般教養・作文・面接試験における対策方法等について助言をいただくとともに、実践力を高める演習を行うものです。

八戸高校：サイエンススタディープロジェクト

日程：令和元年６月９日
場所：八戸高校
参加：八戸高校、八戸東高校、八戸北高校の３校から生徒１８名

サイエンススタディープロジェクトは、大学教授から研究の取り組み方等について講義をいただいた後、各校の生徒が班ごとに分かれ、仮説を立て、実験し、振り返るといった研究の一連の流れを実際に行いながら、研究に必要な力を身に付けるものです。

資料４：拠点校と各校の連携による主な取組

五所川原農林高校：グローバルＧＡＰ認証取得支援

日程：令和２年８月４日
場所：柏木農業高校
参加：五所川原農林高校、柏木農業高校の２校から生徒２１名

グローバルＧＡＰ認証取得支援は、認証に向けたノウハウを持っている五所川原農林高校の生徒が柏木農業高校を訪問し、取組状況の実践発表等の支援を行うことで、柏木農業高校が認証取得を目指すものです。
※グローバルＧＡＰ認証：農作物が安全であることを示す国際認証規格

三本木農業高校：農業クラブリーダー研修会

日程：令和２年10月７日、令和３年１月15日
場所：オンライン研修
参加：三本木農業高校、七戸高校、五所川原農林高校、柏木農業高校、名久井農業高校、弘前実業高校の６校から生徒２５名

農業クラブリーダー研修会は、県内農業高校等のリーダーが一堂に会し、各校における農業クラブの取組状況や課題について意見交換を行うこと等を通して、リーダーとしての資質向上を目指すものです。

青森工業高校：２級ボイラー技士講習会の合同開催

日程：令和元年７月～８月（延べ７回）
場所：県民福祉プラザ他
参加：青森工業高校、むつ工業高校の２校から生徒１９名

２級ボイラー技士講習会の合同開催は、外部講師による講義を通して、ボイラーの取扱いに必要となるボイラーの構造、燃料及び燃焼等について理解を深めるとともに、関連法令に関する知識を身に付け、連携する高校と共に２級ボイラー技士の資格取得を目指すものです。

弘前工業高校：上級学校の研究発表会の見学

日程：令和元年 12 月 17 日
場所：東北職業能力開発大学校青森校
参加：弘前工業高校、五所川原工業高校の２校から生徒７０名

上級学校の研究発表会の見学は、工業高校の生徒が東北職業能力開発大学校青森校における実践的な工業技術に関する研究発表を見学することで、３年次の課題研究テーマ選定の参考とするとともに、研究の進め方について学び、学習意欲を高めることを目指すものです。

八戸工業高校：地域から学び還元する工業教育

日程：令和２年８月４日、11 月５日
場所：八戸工業高校
参加：八戸工業高校、十和田工業高校の２校から生徒９５名

地域から学び還元する工業教育は、十和田工業高校と連携し、地域産業について深く考える高校生を育成するため、大学等から講師を招き SDGs を意識した未利用熱エネルギー研究に関する講義や、旋盤及び電子回路組立に関する技能講習を実施することで、地域産業の中核を担う人財育成を目指すものです。

青森商業高校：県内 IT 企業による出前授業

日程：令和２年６月上旬～３年２月下旬
場所：商業科を設置する各校
参加：青森商業高校、弘前実業高校、黒石商業高校、三沢商業高校、八戸商業高校の５校から生徒２３３名

県内 IT 企業による出前授業は、地元 IT 企業と各校が連携し、課題研究やビジネス情報分野に属する科目等における学習内容を深める講義や演習を行い、青森商業高校が各校の取組内容を取りまとめて情報共有することで、実践力を身に付けた IT 人財の育成を目指すものです。

◇問い合わせ先
〒030-8540 青森市長島１－１－１
青森県教育庁高等学校教育改革推進室
電 話　　０１７－７３４－９８６６
ﾌｧｯｸｽ　　０１７－７３４－８００３
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-kaikaku/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp